園だより

令和５年１２月１日

社会福祉法人新田保育園
園長　大西　陽子

『子どもの世界』

ある朝の０歳児みかん組。ガラッと戸が開く音が聞こえると、それまで見ていた絵本からパッと目線を上げて立ち上がり入り口の方へ向かいます。そして登園してきた友だちと顔を見合わせ、互いににっこり。言葉はなくとも『おはよう！』と言う声が聞こえるようです。ずり這いで遊んでいる子のところへそっと近づいて行く子が一人。おもちゃを手にして対面に座ったと思ったら、うつ伏せの体勢に。向かい合って目線を合わせると、ずり這いの子がおもちゃに手を伸ばして笑いました。これを見て持って来た子も笑います。見ていた保育者も幸せな気持ちになって微笑みました。

さて１歳児りんご組では、友だちに飛びかかろうとする姿が見えたので保育者が間に入りました。相手が手にしていたおもちゃを指さしていたので「これが欲しかったの？」と保育者が言葉をかけました。すると「ほしかったのー！」と言って頬をぷうっと膨らませて見せました。その姿が本当に可愛くて、保育者は真似っこしたくなりました。「先生も欲しかったー！」ぷうっ！するとどこからともなくもう１人やって来て「〇〇もほしかったー！」ぷうっ！としたのです。・・・ぷワッハッハ！同時に３人とも笑い出しました。そしてまた３人でぷうっ！として大笑い。一瞬にしてケンカは真似っこ遊びになりました。

庭で遊んでいた２歳児ことり組を覗いてみると、砂場で何やら悶着中。友だちに「だめ」と言われ立ち尽くしている子がいました。何がだめなのかと聞いてみると、「くるまはこっちなの！」作った道の外側を指さします。その道に走らせていたのは電車のおもちゃ。なるほど、ここは線路だから車は走れないというわけです。だめと言われたことに落ち込んで砂場を飛び出したその手に、いつの間にか電車が握られていました。それでもまだうつむいています。「電車ならいいんじゃないかな？」と保育者が後押しすると顔が上がり、砂場に向かっていきました。

コミュニケーションツールとして、言葉は欠かせないもののひとつです。けれども、まだ言葉を巧みに使えなくても、子どもたちの世界には“感じる心”が溢れています。感受性というものは、こうした言葉を使わない時期にこそ多く育まれるのではないでしょうか。子どもが五感を使って感じたものを、近くにいる大人が感じ取り丁寧に言語化することで、思いや考えを言葉にして表現するようになります。楽しい、嬉しい、悲しい、悔しい、ワクワク、ドキドキ、プンプン。この子どもの世界の豊かな心を一緒に感じたい。子どもたちの思いを知りたい。そして一緒に心動く体験をたくさん重ねたい。だから私たちは、今日も子どもたちとたくさん遊び、日々感性を磨くのです！　（文責：斉藤 千鶴子）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
12月	頭シラミチェック			りんご組個人面談週間		冬まつり総練習②								避難訓練		冬まつり		ひよこ組個人面談週間	健康体育（3・4・5歳児）	健康診断（0・4歳児）		プラネタリウム鑑賞（4・5歳児）				誕生会・写真の日		保育納め	（保育初めは1／4（木）です）休み		